

## 【第14回】けんぽの保健師コラム～男性にも知ってほしい子宮頸がんのこと～

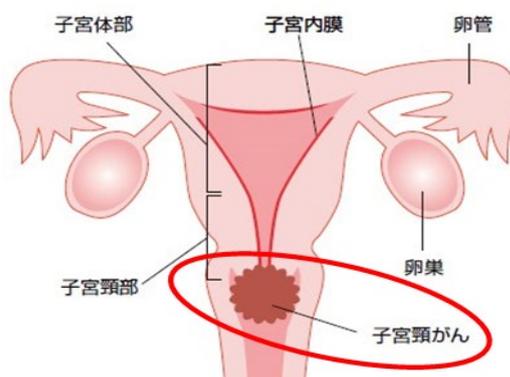
みなさん、こんにちは！第14回保健師コラムは、石田が担当致します。

寒い日が続きますが、ようやく梅の花が咲き、春を感じられる時節になってきました。

さて、3/1～3/8 は世界女性デーにちなんで「女性の健康週間」となっています。今回は、女性の命や心身に大きな影響を及ぼす「子宮頸がん」について取り上げたいと思います。男性の方も、病気を正しく理解し大切な家族に検診を進めるため、または同僚の方が検診を受けやすい環境づくりのために、これを機会に関心をお持ちになってください。ぜひご一読をお願いします。

### どんな病気？

子宮の頸（くび）部にできるがんのことです。



子宮頸がんは子宮がんのうち約7割程度を占め、最近では発症ピークが40～50歳代から30歳代後半に変化し、20～30歳代の若い女性の罹患も急激に増えています。国内では、毎年約1万人の女性が子宮頸がんにかかり、約3,000人が死亡しており、現在、患者数も死亡率も増加しています。ヤマトグループでも近年増加傾向にあり、残念ながら30歳～40歳代で亡くなる方も見られています。

### 原因は？

子宮頸がんのほとんどは、ヒトパピローマウイルス (HPV) という男女とも感染するありふれたウイルスが性的接触により子宮頸部に感染することが原因で、性交経験のある方は一生に一度は感染すると言われてています。感染しても、90%の人は免疫の力でウイルスが自然排除されますが、10%と高い割合で感染が長期間持続します。(同じようにウイルス感染が原因となるC型肝炎ウイルスの保有率1～3%と比較しても高い数字となります。) 感染が長期間持続した方のうち、一部の方で異形成とよばれる前がん病変となり、数年以上をかけて子宮頸がんに行進します。

### 進行に伴う自覚症状は？

早期にはほとんどありません。異常なおりもの、月経以外の出血（不正出血）、性行為の際の出血、下腹部の痛みなどが現れた際にはかなり進行している状態ですので、これらの症状がある方は早急に婦人科を受診し、医師の診察を受けてください。

### ワクチンは？

子宮頸がんにはワクチン接種が非常に有効で、海外ではワクチン接種率が70%を超えている国も多く、接種により子宮頸がんの罹患・死亡率が70～80%も減る等大きな効果を上げています。日本でも2022年4月から積極的勧奨が再開され、小学校6年生～高校1年生相当の方と1997年～2005年生まれの未接種の方が無料接種の対象となることが決まりました。詳しくは自治体のホームページなどをご覧ください。ただし、ワクチンを接種しても、20歳を過ぎたら定期的に子宮頸がん検診を受けることは必要です。

### 検診ではなにをするの？

子宮の入り口付近の頸部をブラシなどで擦って細胞を集め、顕微鏡でがん細胞や前がん病変の細胞を見つける検査を行います。痛みはほとんどありません。

出血などの症状がなくても、20歳を過ぎたら2年に1回の子宮頸がん検診を受けましょう。

### 健保の補助は？

対象：発症のピークである25歳～49歳以下の方

補助額：上限3,000円まで（補助前の本人窓口負担は2,000円～6,000円程度です）

対象検査項目：頸部細胞診、視診・問診・内診

自主的に医療機関（産婦人科等）で受診、もしくは市区町村の補助を利用して受診後、[健康保険組合ホームページ「子宮頸がん検診費用補助申請書」](#)より申請書をダウンロードし、所属の人事総務課へ提出してください。

提出期限は受診日より90日以内になりますのでご注意ください。

検診に行ったことがない、または何年も前に行ったきりという方、ぜひこの機会に検診をお受けになってください。

男性の方は、定期健診以外にも必要なこの検診を女性の方がスムーズに受けることができるよう、勤務環境調整などのご理解とご協力をお願い致します。

それでは、次回もお楽しみに。

今回の記事の引用元：[公益社団法人日本産婦人科学会](#)